

# 放デイ申請の 手続きについて

## 放課後等デイサービスの対象となる方

- ・学校に通学していて、（学校教育法第1条校）かつ下の条件を1つでも満たす児童
- ・障害者手帳手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）を持っている
- ・特別支援学校、特別支援学級に在籍している。  
もしくは通級している児童
- ・特別児童扶養手当を受給している
- ・医師の意見書がある

放課後等デイサービスの利用前に、考えておくべき**大切なことが2つ**あります。利用の仕方によっては、お子様に負担がかかってしまう可能性もあります。放課後の時間をよりよく過ごせるよう、2ページ目以降にもぜひ目を通してください。



## 利用までのスケジュール（R4年度）

### 令和5年

- 1月～** お子さんと一緒に事業所の見学をする。  
利用予定の事業所を仮決定する。  
※添付の事業所一覧を参照してください。各自、気になる  
ところへ連絡をして、動いていただく必要があります。
- 2月以降** 福祉課へ申請・面接予約の連絡をする  
（面接の日程調整をする）。
- 2月中旬～** 福祉課で申請・面接をする。
- 3月～** 受給者証が発行される。事業所と契約する。
- 4月～** サービスの利用開始

## 見学から申請までの流れ（R4年度）

掛川市HPをご覧ください。HPにて「児童通所サービス」と検索する。  
または、左の二次元コードにて読み取ってください。



## 大切にしたい キーワード

「放デイと家庭と  
地域で過ごす時間  
のバランス」

「放デイ≠学童」  
「放デイの目的は  
療育」

放デイだけでなく、  
家、地域の活動や遊び  
場で過ごす時間も大切  
にしましょう



# ① 利用の目的と頻度

「放デイはあくまで療育のための施設です」

放課後等デイサービス（放デイ）ってどんな施設？

◎療育施設 放課後の居場所 家族支援  
×学習塾 習い事 友達作り 学童と同じ

## 目的（役割）

・家庭や学校とは異なる環境で、コミュニケーションや社会性などの発達支援を行う療育の場

・こどもの地域社会での過ごし方、  
他者との関わり方を学ぶための専門的支援

・子育ての悩み等に関する相談や  
保護者の時間の保障



## 大切にしたいこと・・・

放デイで過ごす時間と、家や地域で過ごす  
時間のバランス

例：小学校の友人と遊ぶ時間

自宅で家の手伝いをする時間、兄弟で遊ぶ時間  
興味がある習い事をしている時間

留守番をする時間、家でゆっくりする時間

## 大切にしたい キーワード

「環境の変化」

「タイミング」

今の1年生、2年生でも  
本人と家族、学校とも話し  
合い、利用を見送った方  
もいます。



## ② 利用するタイミング

「お子さんの状況に応じて利用しましょう」

### 園⇒学校という環境の変化

慣れない環境は**負担**を感じやすく**ストレス**となりやすい

登校：今までとは違う子、徒歩やバスなどの登校手段

学校：今までとは違うメンバー、先生、クラスの雰囲気  
遊びから勉強に

例：本人の環境のストレスが大きいまま、放デイを含む新しいことを始め、学校等に行きたくなくなってしまう。

（放デイは、「学校に通っているこどもが放課後に使う」  
ことを想定した制度です）

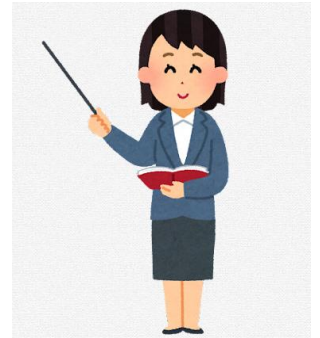
⇒まずは、「**学校へ毎日行く**」という基盤を第一に！！

利用したいが始める  
タイミングが難しいと悩まれる  
方もいらっしゃると思います。

### 悩んだときは・・・

まずは福祉課に相談。  
必要に応じて、市の委託相談にも  
入っていただきながら、一緒に考え  
させていただきます。

福祉課での放デイの申請は、  
随時受付しています。



## 大切にしたい キーワード

「放デイの見学は  
こどもと一緒に！」

過去の事例です。  
少しでも参考になりましたら  
幸いです。



## 過去の事例③

家から近く通いやすいところを探して、放デイAを選んだ。  
しばらくすると、こどもが「行きたくない」。

別の事業所を探して放デイBに変えたら、こどもが楽しんでいくようになった。  
事業所によって、環境や雰囲気が変わるので、  
通いやすいところではなく、“**こどもに合う事業所**”  
を探すことが大事だと思った。



## ③ 過去の事例

### 過去の事例①

もともと放デイを使う予定でいたが、  
学校に慣れてから始めることにして保留。  
1年生の夏休み明けから放デイの利用を開始。  
“他の子に関心がない”  
“自分の思っていることを表現できない”  
ことが課題だったが、放デイカリキュラムにマイペースな  
がらも楽しそうに参加できている。  
こういう場が、コミュニケーションや  
表現することの良いトレーニングに  
なっているなど思う。



### 過去の事例②

小学校入学時から月～金曜日で毎日放デイを利用。  
高学年になり、とある事情で利用ができなくなった。今  
まで放課後の時間を放デイでしか過ごしていなかった  
ため、児童が「友達との遊び方がわからない」  
結果、家の中で過ごすことしかできなくなってしまった。

放デイ以外の放課後の過ごし方も、  
経験させておけばよかったかもしれない。

